

# 地域通貨の事例：ヴィア銀行が発行するヴィアについて

知識科学研究科

学籍番号 250021

梶原晋吾

## 1. はじめに

「エンデの警鐘～地域通貨の希望と銀行の未来」に取り上げられていた地域通貨とオルタナティブな銀行の事例のうち、スイスのヴィア銀行が発行する地域通貨ヴィアに興味をもった。その理由はいくつかあるが、ヴィア銀行は数々の改革を経て70年近くも独自のシステムを維持し、社会的効果も大きかったという事実によるところが大きい。よって、本レポートではヴィア銀行とヴィア銀行が発行するヴィアについて述べることにした。

## 2. ヴィア銀行について

### 2.1 ヴィア銀行が生まれた背景

ヴィア銀行の前身であるヴィア経済リングが誕生したのは、世界大恐慌中の1934年のことである。当時、スイスの経済状況はどん底だった。十人に一人の割合で失業し、中規模の商工業は厳しい状況で、小企業の倒産はかつてないほどに達していた。また観光ホテルの売上は5年間で65%も減少した。このような厳しい経済状況を背景にヴィア経済リングは誕生した。

### 2.2 ヴィア銀行の歴史

- ・ 1934年10月…42,000フランの資金を元手に16人の設立メンバーによって、ヴィア経済リングが創設された。
- ・ 1936年…ヴィア経済リングは、スイスの銀行法の則った銀行業として認可された。初期の段階においては、相対的に組合資本以上の通貨が自由に発行され、現金貸付も認可されていた。経済リングの株式名義人たちによって、スイス全土において信頼で結ばれた65のサービス・インフォメーションをつくり、地方定期市が開催された。
- ・ 1938年…地域においてバーター取引市場が設立され、1フランと5フランの価値がある劣化する決済証書が導入された。
- ・ 1944年…第二次世界大戦の影響で商品の供給不足が如実に現れ、取引が沈滞し、取引高は253,000フランまで低下した。
- ・ 1948年…劣化する貨幣の実験が中止された。また本部がチューリッヒからバーゼルに移転した。
- ・ 1952年…ヴィアは正式にゲゼルの自由貨幣論から距離を置き始めた。これによりヴィアの組合資本に利子が付けられる可能性が生まれ、この年初めて取引高が1000万フランを超えた。
- ・ 1958年…ヴィア経済リングは新しい像をつくり上げ、「購買力の結びつきを通しての中

小企業の連帯」を掲げるようになった。そして、中小企業の支援に専心するようになり、自助的性質を強調し、協同組合的状态を確かなものとした。取引高は、5000万フランを超えた。

- ・ 1964年・・・初めて取引高が1億フランを超えた。そして、これからわずか6年の間に倍増することになり、急成長を遂げる。
- ・ 1973年・・・ヴィア経済リングは、ヴィアの預金残高を売買することを禁止する措置を講じた。
- ・ 1980年・・・取引高は2億5000万フランを超えた
- ・ 1984年・・・取引高は5億フランを超えた
- ・ 1987年・・・取引高は10億フランを超えた
- ・ 1991年・・・取引高は20億フランを超えた
- ・ 1992、93年・・・ヴィア経済リングは、新規の資本を受け入れ、組合資本は800万フランとなった。
- ・ 1995年・・・フランとヴィアの両方の支払いができるカードが発行された。このカードは、スイス・フランではクレジットカードの機能、ヴィアではデビットカードの機能を持っている。2000年現在で、5万2000枚近いカードが発行されている。
- ・ 1997年・・・参加企業リストが完全に電子化され、CD-ROMで配布され、それとともにヴィアの清算取引は、会社内の管理・情報システムの中に取り入れられることが可能になった。また、最も伝統的な銀行の生産物である利子を生むスイス・フランの交互計算口座が導入された。
- ・ 1998年・・・1月に少なくとも2%は利子を生むフランの投資口座が導入され、10月にはフラン及びヴィアとスイス・フランの組み合わせによる支払決済が正式に導入された。また、ヴィア経済リングは企業名を変更し、正式にヴィア銀行という名称になった。
- ・ 1999年・・・ヴィアとスイス・フランの併用貸付が正式に採用され、まず主として住宅用建物に対する融資のときに提供された。

### 3. ヴィアとは

#### 3.1 ヴィアの目的

ヴィアとは、前述のヴィア銀行が発行する地域通貨であり、その通貨単位である。

ヴィアの約款第二条にヴィアの目的が示されている。

「協同組合ヴィアは商業や家内工業、サービス提供に従事する諸企業の相互扶助組織である。その目的は参加者を支援することであり、ヴィアシステムによって購買力を相互に行使しあうことである。またこの輪の中で購買力を維持し、そのことで参加者に追加的な事業量を確保することである。」

つまり、ヴィアの目的は、スイス国内の中小企業をネットワークすることで、安定した長期的な販路を確保し、中小企業間での貨幣の循環を確保することである。

### 3.2 ヴィアの仕組み

ヴィアの取引システムは、実際には紙幣を発行せず、会員間での交換を仲介する通貨の役割を果たす実体のない貨幣を帳簿上でやりとりする方式である。つまり、ドイツの交換リングや LETS と同様、口座変動方式である。しかし、ヴィアでは LETS のように参加者に発行権限がなく、通貨発行権限はヴィア銀行に集中させている。

ヴィアを手に入れる方法は、会員に商品売りヴィアを得る、あるいはヴィア銀行からヴィア建てで融資を受ける、のいずれかである。しかし、ヴィア銀行から会員がヴィア建てで融資を受けるときは僅かな利子が課せられる。この点が他の地域通貨と異なる点であるが、貯蓄に対しては無利子である。つまり、貯蓄性のない貨幣とすることで、ヴィアの循環を促進させようという意図をもっている点では他の地域通貨と同じである。

ヴィアにおける基本的な取引の流れは次のとおりである。新規参加企業は、入会料、年会費を支払うことで、ヴィアに参加することができる。会員企業は、ヴィア銀行が発行する地区別や業種別の会員名簿のほか、年4回発行される会員企業の提供する商品カタログなどの中から必要なものを発注する。ヴィアを扱った取引後、ヴィア銀行は、発注した会員の口座から、ヴィアを使用した分の額を提供会員に転記する。以上のような流れでヴィアは取引される。

## 4 . 考察

「LETS」や日本における地域通貨「ガル」や「おうみ」などは、生活圏としての地域に根付いたコミュニティにおいて、個人間取引を行うものであるが、ヴィアは生活圏としての地域に基づくものではなく、スイスの中小企業という企業のコミュニティにおいて、企業間取引を行うものとして使用されている。この点がヴィアの大きな特色といえる。そして、ヴィアのその狙いというものは、ヴィアが利潤原理ではなく相互扶助に基づく協同組合から出発したということからもわかるように、長期的な中小企業会員間での相互に安定した販路の確保である。そのため、入会規制を設けて、ヴィアを扱った取引はすべてヴィア銀行を通す帳簿型地域通貨を使用することになっており、会員外にその便益というのが決して漏れないようになっている。このことはつまり、ヴィア会員の中でヴィアの循環を確保することによって、ヴィアがもたらす便益を会員外に流出させないことがヴィア最大の目的であると考えることができる。これは、ヴィアの約款からも伺える。

近年、ヴィアのクレジット発行量は現金通貨（スイス・フラン）に対しては3%弱を示しており、またヴィアによる取引高がGDPに占める割合は0.5%前後を占めている。このようなヴィアの現状から、ヴィアによる取引はスイス経済において決して大きいとはいえないが、ある程度の影響を及ぼしうる規模に達しているといえるのではないだろうか。

## 5 . おわりに

以上のように地域通貨ヴィアの事例をみてきたわけだが、ヴィアは、現在実践されている様々な地域通貨が経済社会において一つの貨幣として成熟したときの可能性を示してい

ると考えることができる。